

## 高田本山専修寺

## 国宝の紹介

### 国宝とは

世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいえない国民の宝たるものであるとして国(文部科学大臣)が指定した「国宝」。現在、三重県内にあるのは高田本山専修寺(津市)の「西方指南抄」・「三帖和讃」、金剛証寺(伊勢市)の「朝熊山経ヶ峯経塚出土品」、伊勢神宮(伊勢市)の「玉篇」の4点のみ。

### 「西方指南抄」

(1956年11月14日国宝指定)

同書は、親鸞聖人(しんらんようにん)の師である、法然上人の法語・消息・行状記などを集めた書物。専修寺が持つこの本は、すべて親鸞聖人の自筆。しかも、その筆跡は現存する



聖人の真筆の中で、最高のものと評されている。法然上人言行録としては最古で、本書のみに書写された資料が6編もあるため、非常に価値がある。

### 「三帖和讃」

(同日国宝指定)

和讃とは、日本の言葉で仏菩薩や高僧の徳をたたえる仏教讃歌のこと。大勢で唱和するため、七五調のメロディーをつけたものが多い。平安末期から作り始め、鎌倉時代に最も流行したが、親鸞聖人ほど、優れた和讃を数多く作った人はいない。

同書はその代表作で、「浄土和讃」「浄土高僧和讃」「正像末法和讃」の3帖からなり、門信徒に最もなじみ深い。専修寺が持つこの本は、聖人の自筆か、または直弟子が書写したものに聖人が加筆したもので、現存諸本の中で抜群の権威を持つものとして知られている。

### 国宝を守った堯朝上人

1646年(正保3)、第15代堯朝(ぎょうちょう)上人は、父・堯秀上人が朝廷から受け



た大僧正の位が幕府に無断であったと叱責を受けた。上人の釈明や津藩主藤堂高次公(上人の内室の兄)のとりなしも聞き入れられず、「親鸞聖人の真筆を献上せよ」と要求された上人は、寺宝を守るため、浅草唯念寺で切腹。32才という若い命と引き換えに国宝は守られたのだ。

### 宝物館一般公開

親鸞聖人のご威徳をしのぶ報恩講、通称お七夜が毎年1月に行われる。その期間内、10日から16日(16日は午前のみ)、宝物館が一般公開される。出展物は直前まで決まらないが、何が見られるかを楽しみに、毎年多くの人が訪れる。なお、このお七夜の一般公開以外は予約が必要となる。  
お問い合わせは、同寺・電話059(2336)5701まで。

## 津の情報誌・ゼット

## ホームページの紹介

津の町の文化、産業、観光情報などを発信し、町の発展につなげていこうと、今年6月に創刊した津の情報誌「ゼット」。インターネットでも情報を提供しようと、11月14日、HPを開設しました。まだ出来立てのホヤホヤですが、一度アクセスしてみてください。

「最新号」「バックナンバー」協賛(設置場所)など、「ゼット」ってどんな雑誌?という読者の疑問にお答えできるよう、随時更新していきます。ご質問、ご相談も大歓迎。「お問い合わせフォーム」からお気軽に!  
<http://www.mtecweb.com/z/>

津の情報誌 Z ゼット

発行元 エムテック  
株式会社 エムテック  
三重県津市雲出本町1461-8  
TEL.059-234-0808  
FAX.059-234-0700

津の町をもっと沢山!もっと楽しく!  
色んな情報満載のZで色んな津の町を楽しく知ろう!詳しくはこちら!

最新号	バックナンバー
<p>2008.11.21 協賛(設置場所)を追加しました。NEW</p> <p>2008.09.20 2008秋号を発行しました。NEW</p> <p>2008.08.06 2008夏号を発行しました。</p>	<p>vol.1 2008夏号</p>

copyright MTEC co.,LTD.ALL Right Reserved

## 企業の紹介

### ㈱青山高原ウインドファーム

### 環境にやさしい風力発電 後世に残そう

#### この地球環境を

地球環境の保全は今や世界規模で取り組まなければならない最重要課題となっている。1997年、京都で開催されたCOP3(気候変動枠組条約第3回締約国会議)では先進国の温室効果ガス削減目標を設定。日本は2008年から2012年の平均値で、1990年比6%の削減をすることになった。

世界各国では風力発電に代表される新エネルギーの活用が進められている。政府は2010年までに風力発電の設備容量を300万KWとする導入目標を定め、2003年4月にはRPS法(電気業者による新エ



### 会社概要

**名称** 株式会社青山高原ウインドファーム  
**事業地** 三重県津市榊原町41883-2(室生赤目青山国定公園第3種特別地域内)  
三重県伊賀市奥馬野字布引(同右)  
**資本金** 440百万円  
**主要株主** ㈱シーテック  
**設立** 2000年12月26日  
**事業内容** 風力発電事業及び電力供給

ネルギーなどの利用に関する特別措置法)を施行。新エネルギーの積極的な利用が強化された。  
「地球にやさしいクリーンな電力供給を」と㈱青山高原ウインドファームは、自然環境と調和した本州最大級の風力発電所を青山高原に建設。20基の風車により1時間あたり、最大出力15,000KWの発電量を有する。



### 風力発電に適した 青山高原

20基の風車が立ち並ぶ風力発電施設「青山高原ウインドファーム」は、伊勢の国(津市)と伊賀の国(伊賀市)を分ける布引山地にある青山高原にある。標高600~800mの大草原、その主峰「笠取山」(標高842m)は、笠が取れるほど強い風が吹くという地名の由来があるほどの好風況地域。若狭湾、琵琶湖を通り、伊勢湾に抜ける「風の通り道」にあり、年間平均風速7.6m/s、国内でも有数の強風地帯で、風力発電に適した環境といえる。また青山高原は学校や行政、環境団体などが風力発電

施設見学に訪れるほか、四季折々の自然や展望台からのパノラマ風景、麓にある名湯「榊原温泉」を楽しむと年間約11万人もの観光客が訪れる人気のスポットでもある。

### 風力発電の特徴

1. 風は無尽蔵の自然エネルギー
2. 二酸化炭素を排出しないなど環境にやさしいクリーンエネルギー
3. 地域分散型、需要地と近接のため、輸送によるエネルギー損失が低い

### 風車について

ブレードと呼ばれる羽根が3枚ついたシンプルなデザインの風車は、タワー(柱)の高さ50m、ブレードの回転部の直径50.5m、地上から最頂部までの高さ75mと巨大。風速3m/sの風で起動し、25m/sになると停止。理想的な風速は12.5m/s~25m/s、瞬間の風に応じて360度自動的に首を振る。その風のエネルギーを羽根の回転力に変え、発電機を回して電気を発生させている。

### 未来に向かって

同社は、平成27年度目標に風車46基程度を増設する構想を持って、調査している。構想が実現した場合、既設20基を合わせ合計の発電出力は約107,000KWとなり、国内最大の風力発電所となる。地球温暖化防止は今や地球規模で取り組まなければならない緊急の命題である。今後も「地球温暖化防止、地域社会の貢献、環境教育の啓蒙」と様々な観点から取り組みを続けていこうと考えている。



■NKKからJFEへ

「JFE」と聞いてピンと来ない人も、「NKK」と聞けば、すぐうなづく。JFEエンジニアリング株式会社の前身は1912年(明治45)に創業した日本鋼管株式会社。2003年に川崎製鉄と事業合併。常に世界最高の技術を持って社会に貢献するという理念に基づき、鋼構造・環境・エネルギーなどの分野で幅広く事業展開している。

■生産拠点の津製作所

そのものづくりの主力工場、生産拠点のひとつが、津市の南伊勢湾に面した雲出鋼管町に



ある津製作所だ。敷地面積は100万平方メートル。東京ドーム21個分を超える、業界屈指の広大なスペースに、工場や研究所が効率的に建ち並ぶ。鋼材を使用して、橋梁(りょう)や港湾構造物などの巨大な製品を年間3万5千トンの造り出している。

■誰もが知る製品の数々

海や川に架かる長大な橋や高速道路。同製作所の橋梁製品の代表格・明石海峡大橋は8年がかりの大作だ。その他、名港トリトン、横浜ベイブリッジなど、観光名所とも言われる有名な橋は枚挙にいとまがない。港湾構造物は「ハイブリッドケーソン」(防波堤等)と「ジャケット」(海に浮かぶ築堤等)が主。このあたりでは鳥羽港、四日市港の防波堤や名古屋港・飛鳥ふ頭のジャケットなどがそう。その他、中部国際空港とつなぐ高速船の発着所「津なぎさまち」の浮き桟橋などの建設も行っている。

誰もが知る製品群だが、これらが、わが町・津で造られていることを知る人は案外少ないのではないだろうか。



■日本初の構造

■羽田新滑走路

現在の最も大きな仕事は、東京国際空港、通称羽田空港のD滑走路だ。同空港には、既にABCの3滑走路があるが、近年の航空需要の拡大のため、新滑走路の建設を進めている。神奈川県寄りの多摩川の河口付近に位置するため、川の流れを妨げないように、約3千メートルの滑走路のうち、2千メートルを埋め立て、残りの1千メートルを橋脚状に製作。橋脚部分の下を川の水が流れる構造になっている。この構造は世界にもアメリカとポルトガルの2例しかなく、ここまで大規模な試みは世界初と言つていいだろう。42.5メートル×60.5メートル×桁高2.5メートルの上部ジャケットと高さ32メートルの下部ジャケットを組み合わせて造る。JFE内でも、播磨、清水、千葉と津で作業を分担。津では、連絡導路も合わせて、238基のうち、68基を担当。6万トンの

材料を要し、完成した1個の重さは最大1200トン。耐海水性の高いチタンカバープレートで覆い、内部を空調するなどしてサビを防ぎ、維持費低減にも配慮している。

■求められる高品質

羽田空港プロジェクト室長・雑賀正和さんは「総重量4000トンの世界最大のジャンボジェット機のアバ380が1日に300回ほど離発着を繰り返す計算になるため、非常に高い品質が要求される仕事です」。総務室総務グループマネージャーの小高文男さんは「それを100年持たせる構造にしなければならぬのだから、大変です」と話した。

ひとつひとつの溶接箇所を超音波で精密に確認するなど、疲労破壊に耐えうるジャケットの製作に日々取り組む。2010年秋の開港予定に向けて、既に半分以上の発送が終わるなど順調な仕上がりがだ。

■技術を受け継ぐ若い力

現在、同製作所の従業員は約1千200人(グループ会社含む)。工場で使用している自動機械の情報を作る人、その機械を動かす人など、それぞれ

■(株)油正(あぶこやん)

■地域に根ざす造り酒屋

近鉄久居駅から南西へ15分ほど歩くと、歴史を感じさせる黒壁の建物が見えてくる。屋根と窓枠の白さが映える黒い蔵。右手の軒先には大きな杉玉と「初日」の看板。ここが老舗(らっぽ)の造り酒屋「油正(あぶこやん)川端治夫社長」だ。

1869年(明治2)、「油正商店」として創業し、1991年に「株式会社 油正」と改称。創業時から代々伝わる「伊勢仕込み技法」と、但馬杜氏(たじまとうじ)の卓越した技術と情熱により、地元・久居台地からわき出る、布引山系雲出川の伏流水と、同じく地元・三重県で収穫される米を使って、風土の恵みを大切にした酒造りを行っている。



■日本酒ができるまで

19歳からこの道一筋、同社の杜氏を任されている中井義雄さん(73)に、酒造りを説明してもらった。中井さんは毎年10月から3月まで蔵に泊り込みで酒を仕込む。

酒造りは、玄米を精米し、蒸すことから始まる。同社では米の水分量にもこだわる。蒸し加減も杜氏の腕の見せ所だ。専業農家が丹精を込めた米を蒸すと、ツヤツヤして一粒一粒が立つという。

次が「麹(こうじ)造り」。二麹・三酒母(もと)・三造り」と言われるように、一番難しいのが麹造り。蒸し米に麹菌を植えて造るのだが、同社では1日の断熱材で囲った、温度湿度を保つ特別な部屋で行う。絶えず菌の繁殖状況を確認しながらかき混ぜて、麹菌を繁殖させてゆく。握ってみて、パラパラと崩れれば完成だ。

いよいよ仕込み。麹と酒母(もろみ)の発酵を促す酵母を大量に培養したもの(に、さらに蒸し米、水を加える。同社には百以上のタンクがあるが、ひとつひとつに番号と容量を書き、管理している。毎日、もろみの表



面の様子を杜氏の厳しい目でチェック。權(かき)でかき回し、タンクにマットを巻いたり、水で冷やしたりしながら、温度を均(ひと)に保つ。細心の注意を払う中で、少しずつ少(すく)ずつ酵母が米を食べて酒になってゆく。最後に压榨(あつさく)。発酵が終わったもろみをしぼり、酒と酒かすに分ける。昔は7人がかりでしぼったが、今は機械のお蔭で随分楽になったという。

■初しぼり式

10月30日、今秋収穫した米を使った新酒の初しぼり式が行われた。川併(かわい)神社の宮司が祝詞をあげる厳粛な儀式の後、杜氏ら酒造りに携わる人がきき酒をして、出来具合を確かめる。毎年、材

料の米そのものが違うので、しぼってみるまでは不安だというが、「甘みがあつて、さっぱりしている」と中井さんも太鼓判を押した。

■蔵開き

11月23日、「蔵開き」が行われた。仕込み中の酒蔵見学としぼり立ての新酒を試飲する「きき酒」が行われた。お得意様に新酒の出来ばえを批評していた。こうと始めたもので、今年で24回目。年々規模が大きくなり、今では毎年恒例の行事として、地域にも根付いた。工場内いっばいに、焼き魚やうどんなどのおつまみ、軽食等の屋台が並び、例年、1200人以上の人が集まるそうだ。

もちろん番人気は「きき酒」。口当たりがよく、フルーティイ



れの現場で力を発揮している。ロボットによる自動化も進んでいるが、微妙な作業には熟練の技が欠かせないという。同製作所では、今まで培った高度な技術を受け継ぐ若い力を求めている。世界を相手に、100年後にも残る手こたえのある仕事をともにする仲間を募集している。

■会社概要

名称 JFEエンジニアリング株式会社・津製作所  
 資本金 100億円  
 代表者 所長 四方淳夫  
 住所 津市雲出鋼管町1番地  
 TEL 059(246)2100  
 FAX 059(246)2787



な味わいだ。が、しぼり立ての原酒はアルコール度数が20度近く、焼酎並み。試飲した人の中には「きくー!」と思わず声を上げる人も。

なお、予約すれば、酒蔵見学ときき酒は可能。12月23日には近鉄主催のイベントがあり、しぼり立ての新酒をきき酒で

■酒蔵コンサート

今春、国の有形文化財に指定された同社の酒蔵は「ふるさと博物館 油正ホール」として、絵や生け花の展示、お茶の会、琴などのコンサートを開いている。市民に憩いのひと時を提供している。次回は2月にコンサートを開催予定。(詳細未定)  
 お問い合わせは、同社・電話059(255)2007まで。